

「本気の共闘」そうわぬ野兄

共産、参院選で相互推薦訴え

2018.10.14
 共産党の第5回中央委員会総会（5中総）が13日、東京・代々木の党本部で始まった。志位和夫委員長は幹部会報告で、来夏の参院選改選1人区で野党の「相互推薦」を目指す方針を重ねて示し、他党に協議を呼びかける考えを表明した。

5中総開幕

志位氏は、相互推薦に否定的な立憲民主党などを念頭に「共闘に対する考え方は異なる点もある。それをぶつけ合うことも含めて政党間の率直で真剣な協議をすみやかに開始したい」と述べた。また、参院選で衆参を握り野党連合政権に道を開く」と訴えた。

安倍晋三首相が意欲を示す憲法9条への自衛隊明記に反対する姿勢も強調し「ひとたび憲法に自衛隊を明記すれば、戦力保持を禁止した9条2項の空文化に道を開く」と主張した。

5中総は2日間の日程で開催され、幹部会報告を受けた討論などが行われる。

共産党の志位和夫委員長「来の国政選挙と同様の「阿」が来年夏の参院選での「相対の呼吸」による候補者一互推薦」実現に向け、他の本化を望んでおり、呼びかけに野党に対して協議のテーブルに「単なる『すみ分け』でなく『本気の共闘』に



共産党中央委員会総会で挨拶する志位和夫委員長
 —13日午前、東京都渋谷区の共産党本部（古厩正樹撮影）

立民など候補者一本化協議に難色

志位氏は13日の第5回中央委員会総会（5中総）でこう力説した。

過去2回の国政選挙では、共産党が一方的に候補者を降ろし共闘勢力全体の議席を増やす方針をとった。共産党との距離感を維持しつつ自らの議席を積み増したい他党にとって、これまでの候補者すみ分けは好都合だったわけだ。

過去2回の国政選挙では、共産党が一方的に候補者を降ろし共闘勢力全体の議席を増やす方針をとった。共産党との距離感を維持しつつ自らの議席を積み増したい他党にとって、これまでの候補者すみ分けは好都合だったわけだ。

共産党が相互推薦の方針を掲げたのは、こうした「片務的」な選挙協力に限界を感じたからでもある。平成26年の衆院選で約606万票だった共産党の比例代表の獲得票は、昨年の衆院選では約440万票に激減し、選挙区を含む議席は公示前の21から12に落ち込んだ。対照的に立憲民主党は16から55（追加公認含む）に躍進しており、共産党の票が共闘した他党に流れていることは明白だ。

枝野氏は13日、候補者一本化に関し「政党間の調整より、それぞれの地域の市民の皆さんと話し合う中で1人に絞り込まれていけばいい」とさいたまま市で記者団に語り、志位氏が訴えた「政党間の真剣な協議」への消極姿勢をにじませた。

立憲民主党や国民民主党は「共産党と協力はするが政権はともしない」とい